

策定年月	令和6年6月
見直し年月	令和〇年〇月

麦国産化プラン

産地名：延岡市

（作成主体：延岡市農業再生協議会）

1. 麦生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

【延岡市の現状】

- ・延岡市は、全耕地面積の約8割を水田が占めており、市街地近郊の田園地帯から中山間地域に至る広範な市域において、水稻・畜産を主軸とした複合経営が展開されている。こうした特性を生かし、小麦・大麦ともに、普通期水稻の裏作で栽培されている。
- ・麦については、小麦は「はるみずき」「せときらら」の生産があり、全量パン用としてJAで集荷し、JA宮崎経済連を通じて██████に販売されている。
- ・大麦については、「はるか二条」の生産があり、全量酒造用としてJAで集荷し、JA宮崎経済連を通じて地元の酒造会社に販売されている。

【課題と取組方針】

- ・ほ場の団地化・生産性向上のためには作業の効率化を図る必要があり、補助事業を活用して高性能スマート機械導入を図るとともに、地域の話し合いにより地域担い手へのほ場集積による団地化を進める。
- ・水田での麦の作付は、湿害による収穫の低下が懸念され、排水対策による収穫の安定が必要であることから、暗きょ、畝立てなどほ場に合わせた技術により、排水対策を徹底する。
- ・水稻と小麦の乾燥作業が重複する期間があるため、スマート機械や乾燥機の導入により、収穫と乾燥作業の迅速化を図り、作業適期の逸失を防止する。
- ・宮崎県は、小麦産地として本地域の取組を強化していく方針であり、また生産者で組織する「延岡市麦作振興会」としても現在の大麦については、需要に応じた生産を行いながら、収益性の高い小麦の生産拡大を図っていく。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

2. 産地と実需者との連携方針

- ・実需者からは安定した品質と生産量が求められているため、生産者で組織する「延岡市麦作振興会」と実需者との直接・間接的な意見交換を通して、需要に対応した生産計画に取り組む。
- ・また、生産者が実需に即した生産が行うことができるよう、生産者、JA、宮崎県、延岡市など関係者が参加する研修会等を実施していく。

(現 状)
(令和5年度)



(目 標)
(令和9年度)



【主要な実需者】



※取扱数量は、目標単収：小麦340kg/10a
大麦：341kg/10a により算定

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

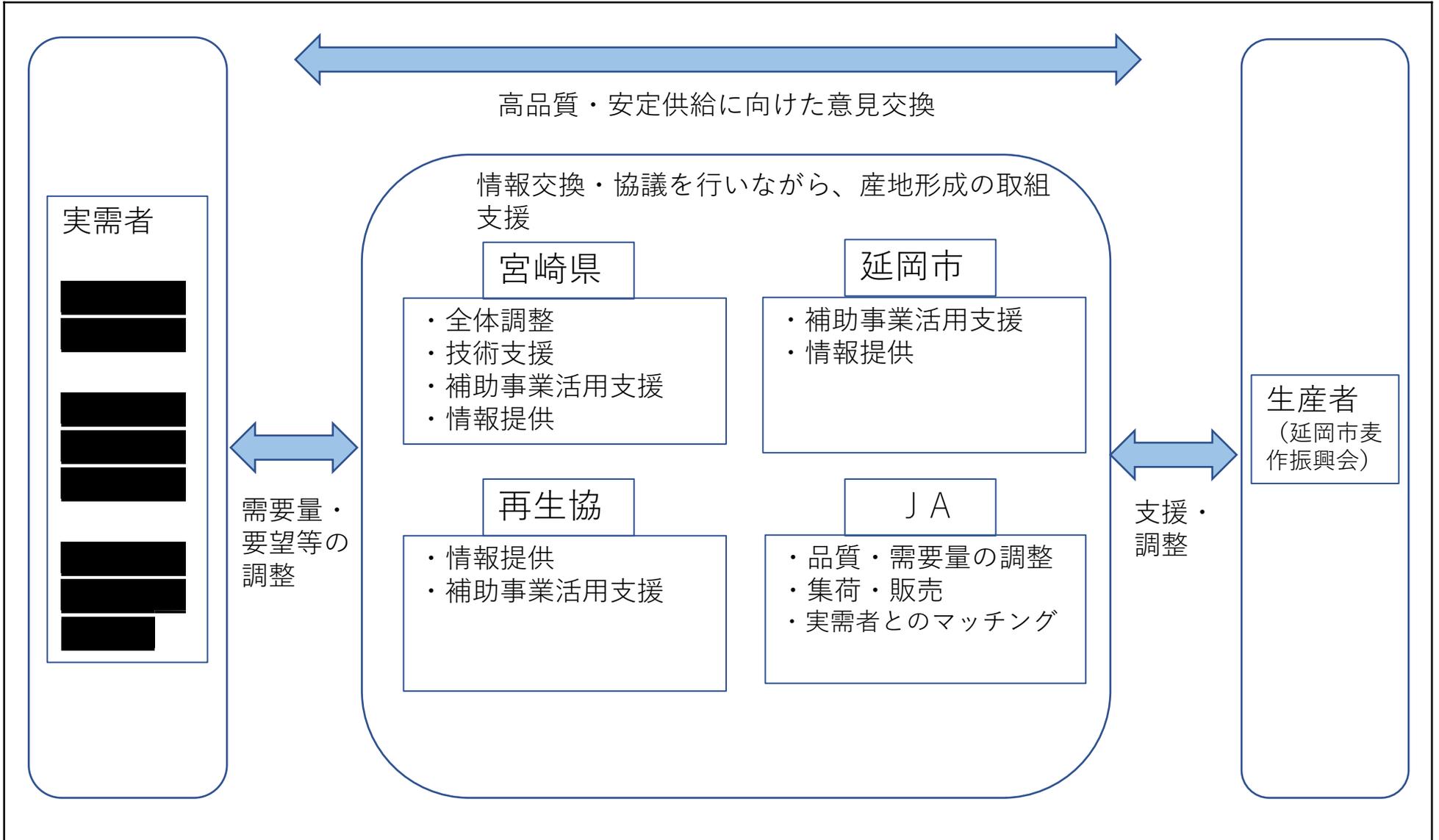
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者(製粉会社、製パン会社、製麺会社等)とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先(最終実需者)について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

3. 麦の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。